

平成 30 年 3 月 20 日

平成 29 年度学校関係者評価委員会報告書

学校法人常松学園札幌工科専門学校
学校関係者評価委員会

議題

- ・平成 29 年度 学校の取り組み状況と自己評価
- ・平成 29 年度 学校自己評価結果による課題と対策

1. 開催日時 平成 30 年 3 月 17 日（土） 10：00～11：20

2. 場 所 札幌工科専門学校 第 2 校舎 会議室

3. 出席委員 前田 寛之 一般社団法人北海道環境保全技術協会 顧問（業界関係者）
奥内 尚史 一般社団法人札幌造園協会 理事長（業界関係者）
下原 英一 (株)イーエス総合研究所 常務執行役員業務企画部長（企業等委員）
古城 学 常松学園札幌工科専門学校同窓会長

出席教職員 常松 哲 理事長
三上 敬司 校長
大坂 道明 教頭
阿部 峰雄 環境土木工学科長
岩瀬 聡 造園緑地科長
伊藤 幸一 事務局次長

欠席委員 小林 勝美 緑化デザイン(株) 代表取締役社長（企業等委員）
田中 亜弓 モエレ町内会員

平成29年度 学校の取り組み状況と自己評価

I 教育理念・目標

学校の取り組み状況

建学の精神を基に学校教育目標が示されている。この教育目標が持つ理念を入学後のガイダンスにて学生に確実に伝え、その後も適時繰り返すことで浸透させている。

自己評価

①、②における教育理念・目標の学生への周知に関しては、ほぼ平均以上の評価となっている。反面、③、④で問われている、社会経済のニーズを踏まえた将来構想の共有については厳しい評価となっている。理由には、多様な入学生、少子化対応、それに対する学校側の指針の不明確性があげられた。

・補足説明

問題解決に努め、今度ともより良い学校となるよう、尽力する。

II 学校運営

学校の取り組み状況

校長が、時流や職員の意向を鑑み、さらに理事長や設置者の指導を受けながら学校経営を行っている。この経営方針を受け、より良い学校運営がなされるよう、学科長と担当者が中心となり組織の枠に捉われない校務の推進を行っている。

自己評価

学校運営に対する共同体制の欠如が今年度の大きな課題の一つである。教員間の認識の相違や、指示体制の不備、組織体制へのとまどい、等があげられている。いまいちど学校組織の在り方を見直すことで、情報の共有化、共同体制の構築等の向上を目指したい。情報の公開や情報システム化については高評価を得た。

・補足説明

教員間において情報の共有化が十分になされていないという反省点が挙げられたが、朝の打ち合わせを行うなどで、改善を図っている。

・評価委員の意見

インターンシップで本校の学生の評判を聞くと、大学生より良いという声も聞かれる。

Ⅲ 教育活動

学校の取り組み状況

昨年度までは、平日5校時までの授業に加え、土曜日にも午前中に授業を入れていたために、理解不足の学生に対する指導や、進路等に関する個別指導が希薄となる状況であった。これを改善するために、昨年度全教員が合意の下、総単位を縮減する教育計画を作成し、今年度の入学生より新教育課程として実施を図った。

今年度は移行期間のため、減単による十分な教育効果があげられない状況であったが、今後本来の趣旨にのっとった教育実践が成されるよう、体制づくりを進めていく。

自己評価

昨年に続き、⑭にある学生へのマナー指導では厳しい評価と多くの意見が寄せられている。しかし、その内容から改善の方向や、地域から評価されているという良好な面も見受けられた。また、インターンシップの効果、授業評価、関連分野との連携など複数でA評価を得ている。

次年度は、昨年度改編した教育課程とシラバスに対し、より精度を上げることで円滑で質の高い教育活動が成されるよう求められている。

・評価委員の意見

(質問) 減単を行ったとあるが、どれくらいの時数か。

(回答) 週当たり4～5単位。専門教科の整理統合、複数あった教養科目の統一化等により削減した。しかし、公務員対策や作文指導等、新たに組み入れた科目もあり、ほぼ毎日5時間授業が続き、場合によっては土曜日にも行う授業実施予定が組まれている。

Ⅳ 学修成果

学校の取り組み状況

学習成果については、在学中の資格取得、進路達成度を評価基準とし、専門学校として本校が受ける評価も、ここが極めて重要となる。そのため学科長を中心に複数の教員で、達成度の向上を目指し取り組んでいる。

自己評価

資格取得に関しては、昨年度全員の合格を果たせなかった、施工管理技士の学科試験では100%の合格率をあげ、実地試験についても教育課程に位置づけ指導している。また、一部の学生ではあるが技術士補を受験し、合格者も出ている。しかし、国家公務員試験(土木技術職)において、昨年度はほぼ全員合格であった2次試験において複数の不合格者を出した。

また、昨年度は5名の中退者が出たが、これまでは0名であり今年度は大幅に少なくなる見込みである。

・評価委員の意見

(質問) 公務員試験の2次試験で不合格者が出た理由は何か。

(回答) 複数合格した生徒が、倍率の高い札幌市を2次試験に選んだことが挙げられる。また、2次試験は面接と教養、専門試験の全てを総合的に判断するのだが、本校の学生は、面接点は良くて教養の点数が不足している者が多いという指摘も受けた。今後は、教養教科が減単した分、文書検定や補講などで補いたい。

V 学生支援

学校の取り組み状況

学生支援では、学生が安心して学習する場を提供し、日常生活や将来に関する不安を取り除くための支援、更には卒業後の支援も行っている。ただし、現状ではその場に応じて、該当の担当者が随時対応するに止まっており、組織的で継続的な活動にまで高められていないのが現状である。

自己評価

取り組み状況にもある通り、場当たりの指導が目立つため、⑨～⑫について D 評価となった。しかし、進路指導では学修評価にも関わり高評価となっている。

昨年度から実施している「目安箱」であるが、今年度何件かの投稿があり、投稿した学生の願いに応えるべき真摯な対応を行った。(カンニングが行われているとのことに対し、複数の試験監督で対応している。)

・評価委員の意見

(意見) 技能五輪に出場する学生に対し、業界でもバックアップ体制を築いていきたい。年齢制限が23歳であり、6割が学校の生徒・学生である。この成果が北海道の造園協会としての評価にもなる。出場する学生においては大きな自信と技能の向上になる。

(回答) 今年度は出場予定者が体調を崩したため、出場できなかった。今後は心技体揃った学生を選手として育成したい。次年度については現状白紙だが、その意思のある学生もいる。

(質問) 本校には部活動としての活動の場はあるか。学校近隣には手付かずの自然も残っているので、生物多様性や保全の重要性を部活動指導の中で学ぶ場を取り入れて欲しい。

(回答) 本校に部活動はないが、演習林やアツモリソウ等の研究を通して指導している。

VI 教育環境

学校の取り組み状況

より良い教育を支援するために、教材や実験・実習設備、更に情報関連器機等の環境を整備している。そのために中長期的な視点に立ち、計画的な設備の更新を行うようにしている。今年度はパソコン 40 台の他、GNSS 受信機、電子平板等の測量機器及びそれらのソフトも更新していただいた。

しかし、学生数の増加に対する実験室等の施設整備が今後問題化してくると考えられる。

自己評価

校舎の衛生環境、災害に対する体制で A 評価となっている。一方で、教室や実験室の収容人数の問題や、老朽化に対応していない実験器具の存在も指摘されている。

・補足説明

測量指導において、現有の測量機器の中に今日では使用できない GPS 等が有り、指導において苦慮していた。しかし今年度、GNSS、TS、関連ソフト、PC 等、合計 1900 万円の機材を購入した。造園実習でもハウスの張替を行い、良質な環境を実現した。購入していただいた理事長に感謝申し上げます。

VII 学生の受け入れ募集

学校の取り組み状況

本校の入学者選抜試験は数学、作文、面接を課し、これを総合的に判断し合否を決めている。平成 30 年度（1 月 20 日現在）は 71 名の出願者の中から出願者から 8 名の不合格者を出した。時代に即した学生募集という点では、多くの専門学校は受験者全入が一般的になっているが、技術者育成教育に耐えうる学生を求めるといふ、本校の理念を貫くために現在の入試選抜を行っている。また、文章力の低い学生が増加していることから、今年度は作文試験も厳格に評価し合否の判定基準に取り入れている。

自己評価

全ての項目で A 評価ではあるが、入学生における企業委託生の割合が増していることから、委託生に頼らない入学生の確保を如何に進めていくのか、今後の高校卒業者数の減少も含め真剣に考えていく時期が来ている。また、授業料の妥当性も検討すべきとの意見があった。

・評価委員の意見

（質問）企業委託生の割合を知りたい。

（回答）全体の約 4 割が企業委託生である。測量科においては、公共事業予算が入学生の数を大きく左右している。今年度は縮小傾向にあったため入学生も少ない。造園科には委託生の学生はいないが、今後は社員教育の一環として入学を検討している団体もある。

・補足説明

入試選抜について、一般的に大学では教養を経て専門を学ぶが、本校では入学後直ちに専門を教え、三角関数等使いこなすことが求められている。このことから一定水準に満たない学生の受け入れは困難である。

VIII 財務

自己評価

一般職員が評価することは難しいとの意見が多かった。

補足説明

財務関連資料はホームページで公開している。

IX 法令等の遵守

学校の取り組み状況

法令については、専修学校設置基準を遵守しこれに添った学校運営を行なっている。更に、より厳しい基準である職業教育実践課程で求められている学校評価の情報もHPで公開している。

自己評価

個人情報の保護対策に厳しい意見もあるが、概ね良好と評価する。

評価委員の意見

なし

X その他

・評価委員の意見

（質問）インターンシップの実施状況について

（回答）6月頃までに本人の希望及び面談を通して、進路希望や適性を考慮してインターンシップ先を決めている。官庁（開発局等）にお世話になる学生もいるが、ここでは見学が多い。期間は2週間実施しており、2週間の受け入れができない企業・団体には2か所での学習を行っている。今年度は10月実施のために調整の難しさが予想される。

（意見）資料について事前に配布してほしい。印刷物の文字が小さすぎる資料もある。